

3 : 善意の仮面



弁護士が自分の依頼人の秘密をマスコミの前でベラベラ喋っている。どこがおかしくないか？

その様子を報道するテレビ局のキャスターは「真実を皆の前で明かにして欲しいですね」と弁護士の暴挙を歓迎するコメントを発している。どこがおかしくないか？

弁護士に依頼人の守秘義務を守れと言う声がどうして出ないのか？

容疑者は罪を犯したのかもしれない。しかし真つ当な裁判を受ける権利はあるはずだ。裁判の前に自分にとって不利なことを全て公開に晒されると分かったら、次ぎから弁護士を信用しなくなり、弁護士に対して真実を語らなくなるかも知

れない。それは逆に大きな社会的損失ではないか。(注1)

容疑者の行動が公衆に対して開示されるのは裁判の席まで待つべきだ。そこまで待つことに対して社会的損失があることは考えられない。

自分がさも正義の味方であるかのごとく記者会見に応じる弁護士二人が善意の仮面をかぶった悪魔に見えた。

似たような場面を朝の通勤電車の中で見た。

いつもより少し遅い電車に乗ったせいで混雑はラッシュのピークに比べれば大分少なかったがそれでもかなりの人が立っていた。僕の斜め前には如何にもオバタリアンという風情の女性が坐っている。

その女性がある駅で席を立った。その前に立っていた少し若い女性は待ってましたとばかり体を席に向けようとするが、前に坐っていた女性がそれを拒む動作をする。その女性は遠くにいるおばあさんに「ホラ、こちらへ」とばかり手招きし、前に立っていた女性を押しつけておばあさんを座らせた。

オバタリアンは自分の善意に満足そうに駅に降りていった。

ちょっと待てよ。自分の席を譲ったのならその善意を認めよう。そうじゃないだろう。自分が降りることになって時点でその席に坐る権利は前に立っていた女性のものになったのじゃないのか？次ぎに誰が座るかということまで自分で支配しようというのか？

ここにも善意の仮面をかぶった悪魔がいた。



(2006.6.10)

注1：その後容疑者が自分の娘すら殺めた疑いが出た。06年7月20日弁護士はその件に関しては守秘義務を守ると表明した。家族を守るためマスコミの取材対応は弁護士で全て代表して欲しいと容疑者が依頼した様だ。ここで取り上げたことは容疑者容認の上での記者会見であった、ということだ。その事を最初に明言しておいて欲しかった。